

科目名 (英)	保健Ⅲ Health	年次	2	実務経験	担当	氏家由美
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容師やヘアメイクアップアーティストとしての実務経験と保健の教員免許を持つ講師がわかりやすく講義をする					
目的 科目概要	美容師として必要な基礎&応用知識の保健学を学び、お客様にどのような関わりがあるのかを学ぶ。					
到達目標	人体及び皮膚の構造と機能について理解する。美容師国家試験に合格できるような応用を身につける。またお客様への質問等にも応えられるようにする。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験					
教科書	日本理美容教育センター発行「保健」	事前事後 学習と その内容	重要項目である章についてはまとめプリントにて復習していく。			
教材	教科書及び適宜DVDなど					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間期末試験時は学生証持参。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	皮膚科学総復習	記述式穴うめまとめプリントにて総復習。解答解説
2	皮膚科学第4章皮膚と付属器官の生理機能復習	皮膚と付属器官の生理機能、吸収作用についての復習。特にシャンプーの成分について詳しく学びさらに経皮毒について理解する。
3	人体の構造及び機能第1～2章復習	人体の解剖学☆骨格器系 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習
4	人体の構造及び機能第3～4章復習	筋系&神経系 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習
5	人体の構造及び機能第5～6章復習	感覚器系&血液、循環器系 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習
6	人体の構造及び機能第7～8章復習	呼吸器系&消化器系 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習
7	前期中間試験	人体学全範囲(20問) 解答解説 前回までに学んだ範囲について理解力を高める。
8	皮膚科学第1章復習	皮膚の構造 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習
9	皮膚科学第2章復習	皮膚の付属器官 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習
10	皮膚科学第3～4章復習	皮膚の神経系&循環器系 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習
11	皮膚科学第5章復習	皮膚の生理機能 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習
12	皮膚科学第6章復習	皮膚の保健 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習 カブレについてのDVD視聴
13	皮膚科学第6章復習	皮膚と付属器官の疾患 重要ポイント&4択(国家試験スタイル)問題記載プリントにて復習
14	前期定期試験	前期期末試験皮膚科学第1～5章(25問)
15	前期定期試験フィードバック	前期期末試験、解答解説、誤文訂正をし自分の苦手な項目を克服する。

科目名 (英)	衛生管理Ⅲ Hygiene management	年次	2	実務経験	担当	渡邊隆
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問ずつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習		
教材	都度					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	感染症の概要と歴史	感染症とはどういう物であるのかまた先人たちの功績について学ぶ
2	感染症における分類	感染症の3つの分類について分類の特徴とそれに含まれる感染症について学ぶ
3	病原微生物の病原体の違いと特徴	病原微生物であるウィルスや細菌について組織成分や生活環境についての違いについて学ぶ
4	感染症各論 その1	呼吸器感染症について学ぶ
5	感染症各論 その2	消化器感染症について学ぶ
6	感染症各論 その3	血液・接触感染、動物等から感染する感染症について学ぶ
7	中間試験	感染症全範囲
8	消毒の仕組みと	微生物を殺菌、消毒などの言葉の意味と消毒における仕組みを学ぶ
9	理学的消毒法	紫外線、煮沸、蒸気消毒について学ぶ
10	化学的消毒法 その1	エタノールおよび次亜塩素酸ナトリウムの消毒について学ぶ
11	化学的消毒法 その2	界面活性剤2種およびグルコン酸クロロヘキシジンの消毒について学ぶ
12	希釈法 計算方法	カルピスを使って消毒液の希釈法の実際を体験する
13	被消毒物に対して適した消毒法	消毒をするものに対し素材等により最適な消毒法を学ぶ
14	定期試験	感染症および消毒法の全範囲
15	定期試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	香粧品化学 I Cosmetic chemistry	年次	2	実務経験	担当	川名修
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・専攻	美容師科	単位	1			
講師紹介	民間企業で材料開発・高分子物性の研究に携わり、加えて美容業務で扱う様々な香粧品に関する物品の知識にも精通している。実務でも役立つ重要な知識を解説する。					
目的 科目概要	美容室を訪れるお客様は美容師が香粧品を扱うプロであると信頼して技術を受けている。その信頼に応えること、つまり香粧品の性状や正しい使い分けは勿論のこと、社会的な意義・法的な根拠・安全性などをどのように担保しているかまで当然認識しているべきである。これらの目標を達成するべく体系的なカリキュラムに従ってバランスの取れた総合的な理解を目指すことを目的とする。					
到達目標	この科目では香粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的の他、どのような薬品が香粧品に属するのか、その定義・社会的意義や特性・法的根拠・製品の安定性も含めた安全性について講義する。これらは顧客に対して絶対に事故を起こしてはならないという目的のためであり、公衆衛生に資する美容師として身につけなければならない知識である。この目標を意識して授業に取り組んでいただきたい。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	香粧品化学(日本理容美容教育センター)		事前事後 学習と その内容	随時、調査課題を出題するのでそれらを調査して自律的に学び、発見する経験を積んでもらいたい。正しい情報源であることを精査しつつネット情報などを有効に用いてもらいたい。スマートフォンをゲームだけに用いるのはもったいないことである。		
教材	適宜配布する					
特記事項	講義で用いる提示資料は撮影を許可する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	導入・物質の構成、化学式	香粧品化学をなぜ学ぶのかを概観する。様々な香粧品を理解するための基礎化学をはじめに開設する。身近な物質はどのように構成されているのか。すべての物質は化学式で表現できることを知る。ただし沢山の化学式を記憶する必要はないので安心していただきたい。
2	原子の構造、イオンの生成原理、化学結合	原子の構造はどのようなものか。またそこからイオンはどのように生成するのか解説する。さらにわれわれの周りに存在する物質は3種類にぶんるいできること、これは3種類の化学結合で理解できることを説明する。
3	溶解、溶解度曲線、コロイドの種類	香粧品は水に原料を溶解させる、あるいはコロイドにすることによって製造する。これらに関して溶解の原理、コロイド生成の原理を説明する。
4	酸と塩基、水素イオン指数、強酸・弱酸など	香粧品には酸性・アルカリ性が重要な役割を持つことがある。この意味を正しく理解できるように解説する。また、酸性・アルカリ性の強弱があること、それを表わすために水素イオン指数(pH)について解説する。
5	酸化と還元、パーマの原理	酸化と還元、酸化剤と還元剤について解説する。この原理を用いたパーマの原理を説明する。美容業務における中心的な内容なのでしっかり理解できるように頑張っていたきたい。
6	有機化合物	有機化合物とは何か解説する。有機化合物の種類は膨大なものであるところから特に美容業務に用いるものに関して説明するので代表的な物品はしっかり記憶していただきたい。
7	中間試験	筆記テストを実施する。復習と質問の時間を設けたのちに始める。
8	香粧品概論、化粧品定義、医薬部外品	香粧品の社旗的意義とは何か。安全を確保するための法的規制。香粧品の安定性と取り扱い上の注意などについて解説する。
9	香粧品原料(水性・油性原料)、皮膚・毛髪・まぶた	香粧品に用いられる原料について水性原料、油性原料(油脂、ロウ、炭化水素)について解説する。身近なものも多いので皆さんがすでに知っている物質に関して先ず理解を深め関心を広げていただきたい。
10	界面活性剤の種類と働き	香粧品を製造するためには必須の物品と言える界面活性剤とは何か、その構造に基づく種類別の役割について解説する。ここでコロイドの理解も深めることができるので関連させながら理解を深めていただきたい。
11	色材の種類とそれらの性質	ポイントメイクアップ香粧品では必須の原料である色素について解説する。国家試験対策としては十分なレベルなら11種類、最低限のレベルで5つは暗記する必要がある。これらについて理解を深めていただきたい。
12	その他の配合成分	酸化防止剤、防腐殺菌剤、紫外線吸収剤など香粧品の機能や安全性を確保するための重要な原料物品について解説する。この分野は国家試験では最も出題される範囲であるところからしっかり取り組んでいただきたい。
13	高分子材料、香料、特殊成分	香粧品に様々な機能を与える高分子材料や特殊成分について解説する。
14	定期試験	筆記テストを実施する。復習と質問の時間を設けたのちに始める。
15	定期試験の振り返り、総合演習	期末テストの解説をする。理解不足の項目を見定めて早めに理解を深めるようにしていただきたい。十分な質疑の時間を取りたいと思う。加えて総合演習を行い理解を深めていただきたい。

科目名 (英)	文化論 I Hygiene	年次	2	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容師免許・管理美容師・美容文化論教員免許取得、美容実務経験(20年)海外実務経験(10年)					
目的 科目概要	日本ファッション文化 第1章～3章 第5節 西洋ファッション文化 第4章～第4章 第9節					
到達目標	日本と西洋の文化を比較しながら歴史の流れを知り、基礎的な知識と幅広い歴史を理解出来るようになる。教科書の内容を修得し、後期に向けて基礎力ができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容文化論教科書・各種プリント			事前事後 学習と その内容	1、教科書に基づき穴埋めプリントを完成させる。疑問、質問を見つけ出す。 2、 解説、解答を理解し、疑問、質問を解決する。 3、オリジナルノートを作りあげる。	
教材	PowerPoint・かるた					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	第1章 総論	授業の進め方 ・ポイント説明 ・プリントとノートの作り方を理解する。
2	第2章 日本理容業・美容業歴史	・理容業・美容業発生 ・江戸時代の理容業・美容業 ・現代の理容業・美容業
3	日本編 縄文・弥生・古墳時代	・縄文・弥生・古墳時代の髪型・服装・化粧について理解する。
4	日本編 飛鳥・奈良・平安時代	・飛鳥・奈良・平安時代の髪型・服装・化粧について理解する。
5	日本編 中世(1086～1574)平安末・鎌倉・室町	・平安末・鎌倉・室町の髪型・服装・化粧について理解する。
6	日本編 近世 I (1574～1603)戦国・安土桃山時代	・戦国・安土桃山時代の髪型・服装・化粧について理解する。
7	前期 中間試験	・1～6回までの髪型・服装・化粧について理解しているか確認
8	前期中間試験 解答・解説	前期中間試験 解答・解説
9	日本編 近世 II (1603～1868)江戸時代	・江戸時代の髪型・服装・化粧について理解する。
10	日本編 近代 明治・大正・昭和20年まで	・明治・大正・昭和20年までの髪型・服装・化粧について理解する。
11	日本編 現代 I (1945～1950年代)	・現代 I (1945～1950年代)の髪型・服装・化粧について理解する。
12	日本編 現代 II (1960～1970年代)	・現代 II (1960～1970年代)の髪型・服装・化粧について理解する。
13	日本編 現代 III (1980年代～1990年代) 現代 IV (2000年代以降)	・現代 III (1980年代～1990年代)の髪型・服装・化粧について理解する。 ・現代 IV (2000年代以降)の髪型・服装・化粧について理解する。
14	前期定期試験	・ファッション文化史日本編を総合的に理解できているか確認する。
15	前期定期試験 解答・解説	・前期期末試験 解答・解説

科目名 (英)	美容技術理論Ⅲ Technological Theory	年次	2	実務経験	担当	鈴木由美子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容師免許・美容技術理論教員資格有・コスメコンシェルジュ・化粧品成分検定上級スペシャリスト・日本ウェディングスタイリスト協会(JWSA)認定講師。長きにわたり美容業界に携わる講師が、現場での実体験を交えながら理論をわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる技術の理論、取り扱う器具、薬剤知識を学ぶ。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	事前に「POINT BOOK」の指定ページの穴埋めを、教科書で調べて埋めてくること。			
教材	POINT BOOK(穴埋め)					
特記事項	「POINT BOOK」の穴埋めが事前に行われているという前提で授業を進めていきます。 必ず確認をしてください。					
授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	序章 教(～P13)	技術を学ぶにあたって必要な人体の名称や姿勢等を理解する。				
2	序章の復習 第1章 美容用具	教(P14～27)・P(P1～3) 序章の復習・美容用具の種類・名称等を覚える。				
3	第1章 美容用具	教(P28～33)・P(P4～5) 美容用具の種類、名称を覚える。				
4	第2章 シャンプーイング	教(P34～55)・P(P6～8) シャンプーの種類・メカニズム・成分・リンス、コンディショナー等を理解する。				
5	第2章 シャンプーイング 第3章 ヘアデザイン	教(P55～67)・P(P9～11) スカルトリートメントの目的、成分等を理解する。デザインにおける錯視を理解する。				
6	第3章 ヘアデザイン	教(P68～85)・P(P12～13) デザインの要素、原理等を理解する。				
7	中間試験	試験範囲(序章～第3章まで)				
8	第4章 ヘアカットイング	教(P87～114)・P(P14～16) カットの目的、ブロッキング、シザーズのカット技法等を理解する。				
9	第4章 ヘアカットイング 第5章 パーマネントウェーブ	教(P114～134)・P(P17～18) シザーズ、レザーのカット技法を理解する。パーマのメカニズム、成分、種類を理解する。				
10	第5章 パーマネントウェーブ	教(P135～156)・P(P19) パーマの手順、ワインディングの種類を理解する。				
11	第6章 ヘアセッティング	教(P159～180)・P(P20～21) ヘアセットの要素、カールの分類、ウェーブの名称を覚える。				
12	第6章 ヘアセッティング 第7章 ヘアカラーリング	教(P180～219)・P(P22～23) ウェーブの種類、ローラー、ブロー等の目的を理解する。カラー剤の種類等を理解する。				
13	第7章 ヘアカラーリング	教(P221～243)・P(P24) カラーリングの手順等を理解する。				
14	定期試験	試験範囲(第4章～第7章まで)				
15	解説・振り返り	試験返却、解説				

科目名 (英)	運営管理I Operational management	年次	2	実務経験	担当	加藤亜希
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	現役美容師の教員が、運営管理の学習内容をつうじて、ひとりひとり、将来像やキャリアプランを想像できるような内容で授業を展開する。経営者の視点をもちつつ、自分がどう選択していくか、今後の人生を豊かにできるようにしてほしい。					
目的 科目概要	・経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ・人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ・顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ					
到達目標	経営管理、税金、社会保険、会計、接客など、身近ではない内容のように見えるし、身近ではない言葉がたくさん出てきます。前期では、噛み砕いた例を多様しますので言葉の意味をよく想像し、また、メモをとったり、みずから調べることでひきだしを増やすことに、慣れていく。また、国家試験科目なので、振り返りができるようなファイル作りをする。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	運営管理(日本理容美容教育センター)		事前事後 学習と その内容	授業内容のおさらいテストを次週行うため、内容の確認ができるようなノート作り、プリント整理をしておくこと。		
教材	配布プリント					
特記事項	運営管理用のファイルを必ず用意すること。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	授業の説明・経営とは	「経営者になりたいか、なぜになりたいか、なぜなりたくないか、経営者とはどんな人をいうか」を考える
2	経営資源と経営戦略	経営資源とは何か、美容業の経営戦略を学ぶ
3	理容業・美容業の現状と競争	美容業界の現状と自分周りを比べて考えてみる
4	資金管理と会計	資金の管理について学ぶ 会計 貸借対照表と損益計算書 財務諸表とは何か学ぶ
5	税金について	税金の種類と支払うタイミング・支払わなかった場合の罰則について学ぶ・マイナンバー制度
6	人という資源・労務管理	経営資源の「ひと」について学ぶ・やる気を出すためには
7	中間試験	中間試験 1～6回の内容から 20点
8	人をやる気にさせるために	給与・待遇・労働者の権利
9	健康管理の基礎	健康診断・労働安全衛生法・美容師の仕事と健康について
10	社会人としての責任・社会保険①	国民年金について(制度・被保険者・給付・保険料)
11	社会保険①	厚生年金について(制度・被保険者・給付・保険料)
12	社会保険②	健康保険について(制度・被保険者・給付・保険料)
13	社会保険②	国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療保険について(制度・被保険者・給付・保険料)
14	定期試験	定期試験 8～13回の内容から 50点
15	定期試験・振り返り	定期試験の振り返り、前授業のファイルの提出

科目名 (英)	就職講座Ⅲ Career Development	年次	2	実務経験	担当	岩本理絵 我妻優子 福田美幸
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、希望就職先へ内定できるようになる。 ②笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書						
教材	手帳・筆記用具(ボールペン・シャープペンどちらも準備)	事前事後 学習と その内容	スケジュールの管理をしっかりと行い、時間管理・体調管理を整えて授業に臨みましょう。グループワークでは自身の発表を進んで出来るように準備をしておきましょう。			
特記事項	メモをする習慣を身につける。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	他己紹介	2人1組。相手をよく知り、クラスの仲間に紹介することでより良いクラス作りをする。
2	偏愛マップをつくる	偏愛マップの作成をし、クラスの仲間の特徴を知る。
3	面接対策	4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
4	面接対策	3回目のチームとは別の4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
5	面接対策	4回目のチームとは別の4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
6	グループワーク	面接対策を通しての気づきをまとめ、それを活かすためにどの様にしていけるかを考える。
7	中間試験	企業側の目線に立ち、『どのような人材がを求めているか』を考えてまとめる 800文字以内
8	社会人基礎力を身につける	社会人としてのマナーを身につける。上座・下座について学ぶ。
9	社会人基礎力を身につける	社会人としての言葉使いを覚える。敬語・丁寧語を正しく学ぶ。
10	社会人基礎力を身につける	伝える力を学ぶ。絵を見て覚え、他の仲間に言葉だけで覚えた絵を伝えることができるか。
11	自分の強みについて考える	認知特性を使って自分の得意なことを知る。得意なことをどのように強みに変えていくかを考える。
12	グループワーク	想定した顧客のニーズを満たせる賞品を話し合い、売るという軸からブレない力を身につける。 例)鉛筆を3万円で売るにはどうしますか
13	ストレスについて考える	ストレスを軽減するためにはどのような行動が必要かを考え、個人で考え、チームで共有する。
14	定期試験	社会に出ていくために必要なことについてまとめる。800文字以内
15	定期試験振り返り	14回で考えたことを全体で共有する。5年後、10年後のビジョンについて考える

科目名 (英)	美容実習Ⅲワインディング Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:国家試験にむけて全頭20分で負けるようにする 概要:衛生の用具や国家試験の流れを習得できる					
到達目標	美容師の国家試験に受かるための技術・知識を習得できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ	事前事後 学習と その内容	必要な用具類は早めに準備する			
教材	ワインド道具一式					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	国家試験の衛生について	準備物の説明 衛生7分・1分を行う 全頭25分でタイムを計る
2	準備物の確認	衛生7分・1分を行う タイムトライアル25分まで
3	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う タイムトライアル25分まで
4	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う タイムトライアル25分まで
5	中間試験について	衛生7分・1分を行う 全頭23分
6	中間試験の流れ	衛生7分・1分を行う 全頭23分
7	中間試験	衛生7分・1分を行う 全頭23分
8	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う タイムトライアル23分まで
9	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う タイムトライアル23分まで
10	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 10分で右側12mm2本目まで 残り10分で全頭を仕上げる
11	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
12	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
13	定期試験について	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 作品の確認 修正
14	定期試験の流れ	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 作品の確認 修正
15	定期試験	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 作品の確認 修正

科目名 (英)	美容実習Ⅱオールウェーブ・セッティング Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術をまなび国家試験に合格する力をつける 概要:国家試験科目である、第2課題オールウェーブ・セッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術の向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ	事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解、習得できるよう復習する。 指示があった時にウィックを洗う			
教材	マニュアル					
特記事項	マニュアルにたくさん細かい説明等を書き込む。理解できなかつた事は、その日に必ず質問し、理解できないままにしない。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	・1年次の7復習(5段目まで30分) ・6段目メイポールカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・6段目メイポールカールを覚える(3分)
2	・7段ウェーブのクオリティとタイムアップ ・7段目クロッキノールカールを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ14分 ・3～6段目カール15分 ・7段目クロッキノールカールを覚える
3	・衛生7分を始める ・全頭30分	・衛生準備物の確認 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ13分 ・3～7段カール18分
4	・全頭30分	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ13分 ・3～7段カール17分
5	・中間試験について ・全頭30分	・採点項目を覚える ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /7段ウェーブ13分 ・3～7段カール16分
6	・中間試験について ・全頭30分	・採点項目を覚える ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /7段ウェーブ13分 ・3～7段カール16分
7	中間試験	試験内容:全頭30分 採点・評価・振り返り
8	・国家試験 採点項目について ・全頭27分	・採点項目の理解と習得 ・全頭27分 ・ウェーブ12分 /・カール15分
9	・国家試験 採点項目について ・全頭27分	・採点項目の理解と習得 ・全頭27分 ・ウェーブ12分 /・カール15分
10	・国家試験 採点項目について ・全頭27分	・採点項目の理解と習得 ・全頭27分 ・ウェーブ12分 /・カール15分
11	・国家試験 採点項目について ・全頭25分	・採点項目の理解と習得 ・全頭25分 ・ウェーブ12分 /・カール13分
12	・国家試験 採点項目について ・全頭25分	・採点項目の理解と習得 ・全頭25分 ・ウェーブ12分 /・カール13分
13	・期末試験について ・全頭25分	・採点項目の理解と習得 ・全頭25分 ・ウェーブ12分 /・カール13分
14	・期末試験について ・全頭25分	・採点項目の理解と習得 ・全頭25分 ・ウェーブ12分 /・カール13分
15	期末試験	試験内容:全頭25分 採点・評価・振り返り

科目名 (英)	美容実習Ⅲカット Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	美容師として長きに渡り経験のある講師が、美容師国家試験に合格するための専門的な知識・技術を習得する授業を行う。実習がメインの授業で、毎回新しい技術を学ぶため、遅刻欠席はしないように臨んでほしい。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験に合格できる知識と技術を習得する。概要:合格基準を理解し、正しいシザー開閉、シェーブ、姿勢を身に付けることが必要。					
到達目標	国家試験第一課題カットの手順を覚えることができる。設定時間内に完成することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材	国試カットマニュアル					
特記事項	毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。					
授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	トップ～バックのヘムライン	ブロッキングを正確にとる。トップ～バックのヘムラインまでを切り、ここまでの手順を覚える。正しい姿勢を覚える。				
2	第3ブロック	トップ～バックのヘムラインまでタイム(10分)を計り、手順の確認をする。第3ブロックを切り、ここまでの手順とパネルの持ち方を覚える。正しい姿勢を覚える。				
3	衛生準備の導入・第2ブロック	衛生準備7分を覚える。第3ブロックまでタイム(20分)を計り、手順の確認をする。第2ブロックを切り、ここまでの手順とパネルの持ち方を覚える。正しい姿勢を覚える。				
4	第1ブロック・チェックカット	衛生準備7分を覚える。第2ブロックまでタイム(30分)を計り、手順の確認をする。第1ブロックを切り、手順とパネルの持ち方を覚える。チェックカットの手順を覚える。正しい姿勢を覚える。				
5	全頭カット	衛生準備7分を覚える。エアーカットのタイムを計る。(40分) 全頭カットのタイムを計る。(50分)				
6	全頭カット	衛生7分・1分。生全頭カットのタイムを計る。(50分)				
7	中間試験	衛生7分・1分。全頭50分で完成させる。				
8	中間試験の振り返り・タイム短縮と構成の理解を深める	中間試験の作品を確認する。衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(35分) 全頭カットのタイムを計る。(45分)				
9	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(30分) 全頭カットのタイムを計る。(40分)				
10	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(25分) 全頭カットのタイムを計る。(35分)				
11	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(20分) 全頭カットのタイムを計る。(30分)				
12	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(20分) 全頭カットのタイムを計る。(30分)				
13	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(20分) 全頭カットのタイムを計る。(30分)				
14	定期試験の準備	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(20分) 全頭カットのタイムを計る。(30分)				
15	定期試験	衛生7分・1分。全頭30分で完成させる。				

科目名 (英)	美容総合技術Ⅲ Comprehensive beauty technology	年次	2	実務経験	担当	福島 裕司 大和田一樹 足立祐季 鈴木由美子 本城実美 荒屋健太 堀江和代 杉本萌
		授業形態	演習			
		時間数	120	あり		
学科・コース	美容師科	単位	4			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為写真撮影及び録音録画を禁止する					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく

科目名 (英)	文化論Ⅱ Hygiene	年次	2	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有		
学科・コース	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容師免許・管理美容師・美容文化論教員免許取得、美容実務経験(20年)海外実務経験(10年)					
目的 科目概要	日本ファッション文化 第1章～3章 第5節 西洋ファッション文化 第4章～第4章 第9節					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッション文化史西洋編の学びを深く理解し、幅広い習得できる。 ・国家試験に向けて、確実に力を付け出来るようになる。 					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	美容文化論教科書・各種プリント			事前事後 学習と その内容		
教材	PowerPoint・かるた					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	西洋編 古代エジプト古代ギリシャ・ローマ・古代ゲルマン	・古代エジプト・古代ギリシャ・ローマ・古代ゲルマンの髪型・服装・化粧について理解する。
2	西洋編 中世ヨーロッパ	・中世ヨーロッパの髪型・服装・化粧について理解する。
3	西洋編 近世Ⅰ(16世紀)・近世Ⅱ(17世紀)	・近世Ⅰ(16世紀)の髪型・服装・化粧について理解する。 ・近世Ⅱ(17世紀)の髪型・服装・化粧について理解する。
4	西洋編 近世Ⅲ(18世紀) 近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め)	・近世Ⅲ(18世紀)の髪型・服装・化粧について理解する。 ・近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め)の髪型・服装・化粧について理解する。
5	西洋編 近代Ⅱ(19世紀) 現代Ⅰ(1910年代～1920年代)	・近代Ⅱ(19世紀)の髪型・服装・化粧について理解する。 ・現代Ⅰ(1910年代～1920年代)の髪型・服装・化粧について理解する。
6	西洋編 現代Ⅱ(1930年代～1940年代前半) 現代Ⅲ(1940年代～1950年代)	・現代Ⅱ(1930年代～1940年代前半)の髪型・服装・化粧について理解する。 ・現代Ⅲ(1940年代～1950年代)の髪型・服装・化粧について理解する。
7	後期中間試験	・1～6回までの髪型・服装・化粧について理解しているか確認
8	中間試験解答・解説 現代Ⅳ(1960年代)現代Ⅳ(1970年代)	・後期中間試験 解答・解説 ・現代Ⅳ(1960年代)の髪型・服装・化粧について理解する。 ・現代Ⅴ(1970年代)の髪型・服装・化粧について理解する。
9	西洋編 現代Ⅵ(1980年代) 現代Ⅵ(1990年代～2010年)	・現代Ⅵ(1980年代)の髪型・服装・化粧について理解する。 ・現代Ⅶ(1990年代～2010年)の髪型・服装・化粧について理解する。
10	礼装の種類 和装の礼装	・和装の礼装に関する知識を深く理解する。
11	礼装の種類 洋装の礼装	・洋装の礼装に関する知識を深く理解する。
12	ファッション文化史日本編	・ファッション文化史日本編を総合的に復習・理解する。
13	ファッション文化史西洋編	・ファッション文化史西洋編を総合的に復習・理解する。
14	後期定期試験	・ファッション文化史日本編・ファッション文化史西洋編 ・礼装の種類を総合的に理解できているか確認する。
15	後期定期試験 解答・解説	後期期末試験 解答・解説

科目名 (英)	美容技術理論Ⅳ・Ⅴ Technological Theory	年次	2	実務経験	担当	鈴木由美子
		授業形態	講義			
		時間数	60			
学科・コース	美容師科	単位	2	開講区分		
講師紹介	美容師免許・美容技術理論教員資格有・コスメコンシェルジュ・化粧品成分検定上級スペシャリスト・日本ウェディングスタイリスト協会(JWSA)認定講師 長きにわたり美容業界に携わる講師が、現場での実体験を交えながら理論をわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる技術の理論、取り扱い器具、薬剤知識を学ぶ。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ	事前事後 学習と その内容				
教材	POINT BOOK					
特記事項	「POINT BOOK」の穴埋めが事前に行われているという前提で授業を進めていきます。 必ず確認してください。(前半)					
授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	第8章 エステティック	教科書(P.5～34)・P(P.25～26) エステティックに関する理論を理解する。				
2	第9章 ネイル	教科書(P.37～71)・P(P.27～29) ネイルに関する理論を理解する。				
3	第10章メイク	教科書(P.73～111)・P(P.30～33) メイクに関する理論を理解する。				
4	第11章 日本髪	教科書(P.113～133)・P(P.33) 日本髪に関する理論を理解する。				
5	第12章 着付け	教科書(P.135～178)P(P.34～36)				
6	語群問題①②	語群問題・解説				
7	中間試験					
8	語群問題③④	語群問題・解説				
9	語群問題⑤⑥	語群問題・解説				
10	語群問題⑦⑧	語群問題・解説				
11	語群問題⑨⑩	語群問題・解説				
12	○×問題①～③	○×問題・解説				
13	○×問題④～⑥	○×問題・解説				
14	○×問題⑦～⑨	○×問題・解説				
15	定期試験					

科目名 (英)	美容実習Ⅳワインディング Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:国家試験にむけて目標タイムで巻けるようにする 概要:衛生の準備物や国家試験の流れを習得できる					
到達目標	国家試験で決められたタイムで全頭巻くことができる 国家試験の衛生の準備物を説明できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ		事前事後 学習と その内容	ロッドを1分に3本巻けるように指を慣らしておくとい		
教材	WD用具一式					
特記事項	毎回のタイムに集中し仕上がった作品を確認する					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	前期のふりかえり 用具の確認	衛生7分・1分を行う センター5～6分 右側8分 左側6分 全頭20分タイムを計る
2	国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る センター収まりについて
3	国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 左右のシンメトリーについて
4	国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る スピードアップのために
5	中間試験について	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 作品の確認 修正
6	中間試験の流れ	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
7	中間試験	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
8	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
9	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
10	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
11	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
12	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
13	定期試験について	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
14	定期試験の流れ	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
15	定期試験	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る

科目名 (英)	美容実習Ⅱ オールウェーブ・セッティング Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坪亜矢子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術をまなび国家試験に合格する力をつける					
	概要:国家試験科目である、第2課題オールウェーブ・セッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術の向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ	事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解、習得できるよう復習する。			
教材	マニュアル		指示があった時にウィックを洗う			
特記事項	マニュアルにたくさん細かい説明等を書き込む。理解できなかつた事は、その日に必ず質問し、理解できないままにしない。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・スカルプチュアカールの再確認
2	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・リフトカール、逆リフトカールの再確認
3	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・メイポールカール、クロッキノールカールの再確認
4	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
5	・中間試験のついて ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
6	・中間試験のついて ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
7	中間試験	試験内容:全頭25分 採点・評価・振り返り
8	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
9	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
10	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
11	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
12	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
13	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
14	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 /・7段ウェーブ11分/・カール13分 ・全頭25分
15	定期試験	試験内容:全頭25分 採点・評価・振り返り

科目名 (英)	美容実習Ⅳ第一課題カット Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	化粧品メーカーのイベント等や広告媒体の第一線で活躍している現役ヘアメイクアップアーティストが基礎マナーを初めとする道具の使い方、メンテナンス方法、ベーシックメイクスキルを教える。□					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験に合格できる知識と技術を習得する。概要:合格基準を理解し、正しいシザー開閉、シェーブ、姿勢を身に付けることが必要。					
到達目標	美容師国家試験に合格することができる。そのためには、カットの基礎的な知識を理解し、合格レベルに達する技術を身に付けることが大切。さらに、衛生試験もあるので、常日頃から身だしなみ、用具類の整理整頓、準備を心掛けるようにする。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書						
教材	国試カットマニュアル	事前事後 学習と その内容	各ブロックごとのポイントを確認する。シザー開閉の練習を行いカットんのスピードや正確さを高める。			
特記事項	毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭25分でタイムを計る。
2	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。
3	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。
4	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。
5	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。
6	中間試験の準備	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。チェックカットを正確に行う。
7	中間試験	衛生7分、1分を行う。全頭20分で正確に切る。
8	中間試験の振り返り	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。中間試験の作品を確認する。チェックカットを正確に行う。
9	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
10	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
11	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
12	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
13	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
14	定期試験の準備	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
15	定期試験	衛生7分、1分を行う。全頭20分で正確に切る。

科目名 (英)	美容総合技術Ⅳ Comprehensive beauty technology	年次	2	実務経験	担当	井上秀浩 青柳光子 川戸有子
		授業形態	演習			
		時間数	60	あり		
学科・コース	美容師科	単位	2			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為写真撮影及び録音録画を禁止する					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく